

日本一の栗産地づくり推進補助事業

「笠間の栗」の経営規模の拡大を行い、栽培から加工・販売までを目指す農業者を支援します。

※全て事前に申請が必要となります。

① 栗の新植・改植を、支援します。

対象の農地が農振農用地区域内か、区域外かで、利用できる補助事業が変わります。農振農用地区域については、農政課窓口にてご確認ください。



対象農地	農振農用地 ◀区域内▶	農振農用地 ◀区域外▶
補助実施主体	国（果樹経営支援対策事業）	笠間市（栗生産規模拡大支援事業）
対象果樹	栗、なし、ぶどう等	栗
事業内容	●新植 ●改植 ●小規模園地整備 等 笠間市果樹産地構造改革計画で、「振興品目・振興品種」と位置付けられている品目・品種の園地	●新植 ●改植 ※改植の場合 他品目または老木・枯死木となった栗（実が収穫できなくなった栗）からの改植に限る
面積要件	地続きで2a以上	・拡大面積が合算して10a以上となること ・経営面積が1ha以上となること 【具体的な経営計画(4ヵ年)を作成すること】
対象農地の状態	・改植の場合は、過去5年において結果樹園であること ・放任園地は対象外	再生作業が著しく困難な荒廃農地や遊休農地ではないこと
補助額	新植：15万円/10aあたり 改植：17万円/10aあたり 未収益期間：22万円/10aあたり	新植または改植：10万円/10aあたり
補助対象経費	苗木代、伐採・伐根費、深耕・整地費、土壌改良用資材等 ※伐採・伐根費は改植の場合のみ	伐採・伐根費、深耕・整地費、土壌改良用資材費等
その他条件	・販売を目的とした生産であること ・対象農地を8年以上維持すること ・笠間市内に住所を有すること ・対象農地が笠間市内にあること ・地域計画に位置付けられることが確実と見込まれる者であること	・販売を目的とした生産であること ・経営計画書を作成すること ・対象農地を8年以上維持すること ・笠間市内に住所を有すること ・対象農地が笠間市内にあること ・市税に滞納がないこと

日本一の栗産地づくり推進補助事業

※全て事前に申請が必要となります。

② 栗の苗木の購入を、支援します。



補助実施主体	笠間市（栗苗木支援事業）
補助対象経費	栗の苗木の購入費 ※規模の拡大に必要な本数以上
対象となる品種	森早生、玉造、丹沢、人丸、国見、大峰、ぼろたん、筑波、紫峰、利平、銀寄、倉方甘栗、美玖里、石鎚、岸根、ぼろすけ
補助額	栗の苗木の購入費の1/2以内（1本1,500円以内）
その他条件	・『①栗生産規模拡大支援事業』の交付申請をすること ・申請年度内に、栗の苗木の定植が完了すること ・定植した栗を継続的に栽培すること ・笠間市内に住所を有すること ・栗の苗木を定植する農地が笠間市内にあること

③ 栗の栽培機械・資材の購入を、支援します。

補助実施主体	笠間市（栗栽培機材等導入支援事業）
面積要件	経営面積が50a以上
補助対象経費	栗の栽培や販売等に必要となる機械・資材の購入費など
補助対象となる機械等	自走式草刈機、乗用草刈機、高所作業車、チップパー、氷蔵庫、冷蔵庫、温湯処理機、冷凍庫、氷温冷蔵庫、焼栗機、収穫機など1機械等あたりの事業費が40万円を超えるもの その他 市長の認めるもの
補助額	総事業費の1/2以内 ※上限50万円
その他条件	・専ら栗の栽培や販売等を生業として行う経営面積が50a以上ある農業者であって、笠間市内に農地および住所を有すること ・前年度出荷実績が確認できること ・市税に滞納がないこと ・令和6年度以降に本事業を活用した者は、申請対象外

※掲載情報は、令和8年4月時点の内容です。詳細については、笠間市農政課へお問い合わせください。

お問い合わせ先	補助事業に関するお問い合わせは	笠間市 産業経済部 農政課 農業振興グループ TEL 0296-77-1101
	栽培方法に関するお問い合わせは	笠間地域農業改良普及センター TEL 0296-72-0701
	栗の販売先に関するお問い合わせは	常陸農業協同組合 笠間営農経済センター TEL 0296-74-4702

笠間で栗を作ってみませんか？

栗の栽培 & 補助事業ガイド

茨城県は、栽培面積・収穫量ともに全国一位の栗の生産地として知られています。中でも笠間市は、栗の生産が盛んな栗のまちです。「笠間の栗」をたくさんの方に味わっていただくため、栗の栽培に挑戦してみませんか？

新たに栽培を始める場合

1. 土壌条件

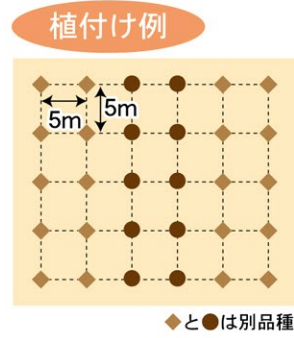
- 栗は元来、深根性の樹種であり、土層が深く、排水良好で適度な水分が維持される有機質の土壌を好む。
- 水田転換畑等の排水の悪い土地に植え付ける場合、排水対策や、土壌改良による物理性の改善を行う。
- 山林を開墾した場合等は、極端に肥料分が不足している場合があるため、堆肥等で土壌改良を行う。

2. 植付け時期

- 植付けには秋植えと春植えがある。
- 秋植えは11～12月にかけて植付けを行い、春植えは厳寒期をさけ、寒気のやわらいだ3月上～中旬が適期である。

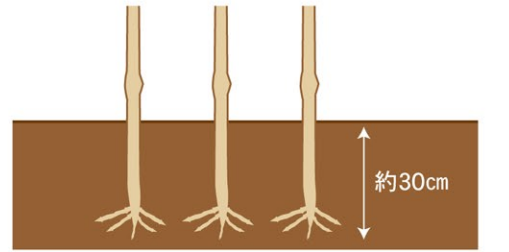
3. 植付け距離

- 栗は自家不和合性のため、異なる品種を混植する必要がある。
- 収穫時期の異なる品種を列ごとに植えると作業が効率的になり、品種別出荷がしやすくなる。
- 5m×5mの正方形植えとする。



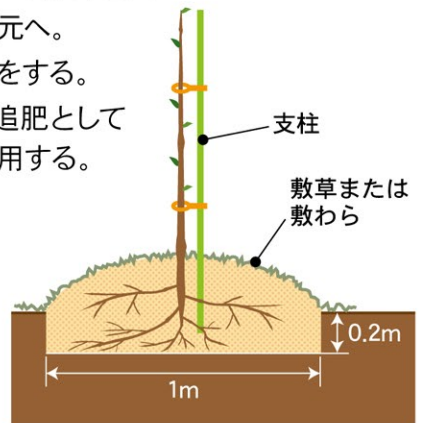
4. 仮植方法

- 日当たりが良く、風あたりが少なく、排水の良い場所に仮植する。
- 根の間に土をよく入れて、水をたっぷりかける。地上部はムシロ等で防寒するとよい。



5. 苗木植付け

- 植付けの際は、根を乾かささない。
- すぐに植えない場合は仮植する。
- 表層の覆土の厚さは一番上の根から1～2cm、深植えない。
- 少し高盛り（10～20cm）で植える。
- 苗木は、高さ1mぐらいで切り返す。
- 化学肥料を一握り株元へ。
- 十分灌水、敷きわらをする。
- 6月下旬・7月下旬に追肥として化学肥料を一握り施用する。



既に栽培している圃場がある場合

1. 生産性が低下した樹の改植を行う

- 圃地の高樹齢化は生産性の低下を招くので、樹勢の低下がみられたら、改植や補植を考える。
- 改植は、収穫が終わり次第伐採し、抜根する。その際、根の残さをできる限り取り除くことが重要である。
- 改植と同時に、深耕や土壌改良により、土壌物理性の改善に努める。

2. 土壌管理・施肥

- 樹齢に応じて施肥量を変える。樹齢ごとの施肥基準は右の表のとおり。
- 施肥時期は、11月下旬～3月上旬の元肥期に50%、6月下旬～7月上旬及び7月下旬～8月上旬の追肥期に25～50%、9月下旬の礼肥期に0～25%程度が目安である。
- 2～3年生の若木の場合や凍害が心配される圃場では、1月～2月の厳寒期の施肥を避ける。

表：樹齢ごとの窒素成分施肥基準(kg/10a)

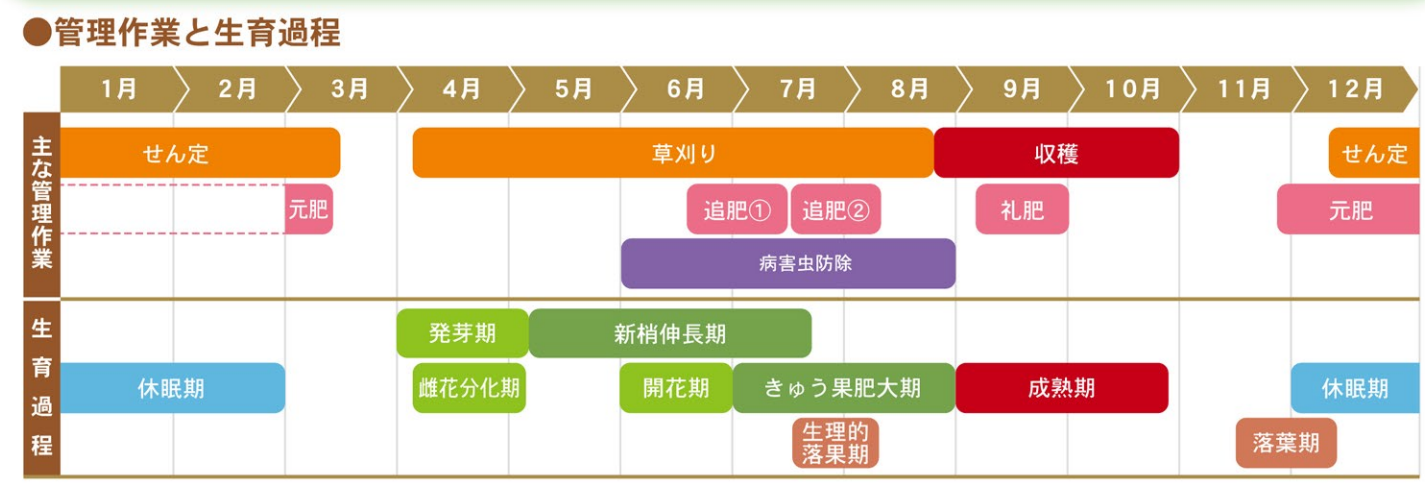
樹齢(年)	総量	元肥	追肥①	追肥②	礼肥
2～3	3	1	1	1	
4～6	6	3	2	1	
7～8	12	6	2	2	2
9～10	16	8	2	2	4
11～	20	10	3	3	4

3. せん定

- ### 幼木～若木期
- 3～4年頃から将来の主枝を順次決定する。
 - 主枝候補枝や主枝の先端は3分の1程度切り返す。
 - 6年生頃から樹冠上部の心を抜き、基本樹形を決定する。
 - 心抜き後、1～2年せん定や誘引を続け目標の樹形にする。

- ### 成木期～
- 基本樹形は心抜きを行った開心自然形から杯状形で、主枝は3本程度とする。
 - 結果部位を更新して大果、安定生産を維持する。
 - 品種にあったせん定方法により、充実した結果母枝を利用する。

年間の作業は？



自家不和合性とは…同じ品種同士だと、受粉しても実がつかない性質。
土壌物理性とは…土の固さや耕しやすさ、水はけや水もちの程度、土の重さ、通気性等のこと。
切り返しとは…枝を途中で切ること。
間引きとは…枝の発生部や分岐部から切ること。
樹冠とは…枝や葉が広がっている範囲。
主幹とは…地表から最上位の主枝の分岐部まで。
主枝とは…主幹から発生する幹に次いで太い骨組みとなる枝。
結果枝とは…花芽や果実をつける枝。
結果母枝とは…花や果実をつける結果枝を出す枝。
心抜きとは…真っ直ぐ上に伸びた真中の枝(主幹延長枝)を最上位主枝の分岐部まで切り戻すこと。
開心自然形とは…主幹を短くし、数本の主枝に分けて仕立てる樹形。
杯状形(開心形)とは…横に開いた主枝で構成し、杯状に仕立てる樹形。

樹齢別の整枝・せん定方法 (3.5m以下の低樹高にする場合)

幼木

定植～3年目

● 支柱を立て主幹を誘引
 ● 1年目はなるべく多くの新梢を残す
 ● 主枝候補枝は先端を3分の1程度切り返す(結実させない)
 ● 極端に主幹延長枝や主枝候補枝と競合する枝は間引く

若木

4～6年目

● 主枝候補枝を養成し、主枝を決定していく
 ● 6年生頃から心を抜き、基本樹形を決定する
 ● 心抜きは、2～3年かけて徐々に行う
 ● 主枝以外の枝を順次整理する

成木

7年目～

● 主幹を切り返し(心抜き)、主枝3本程度の基本樹形にする
 ● 樹形を乱すような強い直上枝・徒長枝を取り除き、基本樹形を維持する
 ● 結果母枝数は樹冠面積1㎡当たり4～6本を目安とする

品種にあったせん定方法

1年生枝に穂が付きやすい品種群

丹沢・筑波・石鎚 など

せん定前

● 長さ50cm以上、太さ8mm以上の結果母枝を利用する
 ● 樹冠面積1㎡あたり3～4本が目安

せん定後

1年生枝に穂が付きにくい品種群

銀寄・利平・岸根 など

せん定前

● 30～50cm前後の充実した結果母枝を利用する
 ● 樹冠面積1㎡あたり6本が目安
 ● 2～3年生で結果母枝を更新

せん定後

丹沢、筑波、石鎚などでは、このようなせん定法を採用することで、**低樹高栽培**がしやすくなります。

「低樹高栽培」とは…樹高をおよそ3.5m以下に抑え、せん定作業や病害虫防除がしやすいように仕立てる栽培法です。

所得はどれくらいになるの？

10a当たりの所得

品種：丹沢の場合*1

粗収益	22万1千円
経営費	9万3千円
所得	12万8千円

※1…概算値
 労働時間・単収・経営費 参考：茨城県果樹農業振興計画(令和4年4月)
 単価 参考：令和3年度～6年度空閑産の果品種別等級別販売実績【平均値】(JA常陸)

労働時間は10aあたり39時間

所得向上を目指すには

優良品種を品種別に出荷することで高単価販売につながる

品種	単収	単価(平均)	単価(3L)
丹沢	300kg	736円/kg	885円/kg
筑波	300kg	873円/kg	909円/kg
石鎚	300kg	785円/kg	870円/kg
普通栗	300kg	750円/kg	837円/kg

単収 参考：茨城県果樹農業振興計画(令和4年4月)
 単価 参考：令和3年度～6年度空閑産の果品種別等級別販売実績【平均値】(JA常陸)

●新たに栽培する場合(栗が収穫できる農地：成園を借用)

例：農地を1ha借用(丹沢30a・筑波30a・石鎚40a)

	1年目	2年目以降
粗収益	264万円*2	239万円
経営費	93万円	93万円
所得	171万円	146万円

※2…うち補助金①は25万円(集積)
 単収・経営費 参考：茨城県果樹農業振興計画(令和4年4月)
 単価 参考：令和3年度～6年度空閑産の果品種別等級別販売実績【平均値】(JA常陸)

栗で所得650万円超を目指すには

経営規模5ha(丹沢3ha・筑波1ha・石鎚1ha)の場合

粗収益	1,159万円
経営費	466万円
所得	693万円

単収・経営費 参考：茨城県果樹農業振興計画(令和4年4月)
 単価 参考：令和3年度～6年度空閑産の果品種別等級別販売実績【平均値】(JA常陸)
 経営費において、雇用労賃は考慮していない(規模が大きくなるため、収穫には収穫機械・臨時雇用が必要)

栗栽培を拡大して所得600万円を目指す(栗+水稲の複合経営の場合)

・現状の経営規模：水稲3ha(コシヒカリ)、栗1ha(筑波50a、石鎚50a)

	現状	うち栗
粗収益	749万円	248万円
経営費	357万円	93万円
所得	392万円	155万円

水稲の経営 単収・経営費 参考：普及センター調べ
 単価 参考：令和4年度～7年度米概算金 JA米1等コシヒカリ【平均値】(JA常陸)
 栗の経営 単収・経営費 参考：茨城県果樹農業振興計画(令和4年4月)
 単価 参考：令和3年度～6年度空閑産の果品種別等級別販売実績【平均値】(JA常陸)

新たに農地を2ha借用(栗収穫開始前の農地：未成園)
 ・経営規模拡大(筑波1ha・石鎚1ha)
 ・苗木(筑波400本・石鎚400本)

苗木代	64万円(1本あたり800円で算出)
整地等の経費(改植の場合)	200万円(10aあたり10万円で算出)

【1年目】(栗の収穫：成園1haのみ)

	栗	水稲	合計
粗収益	480万円*3	500万円	981万円
経営費	357万円	264万円	621万円
所得	123万円	236万円	360万円

※3…うち補助金①及び②は232万円

【2～4年目】(栗の収穫：成園1haのみ)

	栗	水稲	合計
粗収益	248万円	500万円	748万円
経営費	279万円	264万円	543万円
所得	△31万円	236万円	205万円

【5年目】(栗の収穫：成園3ha)

	栗	水稲	合計
粗収益	746万円	500万円	1,246万円
経営費	279万円	264万円	543万円
所得	467万円	236万円	703万円

経営費において、雇用労賃は考慮していない(規模が大きくなるため、収穫には収穫機械・臨時雇用が必要)

品種の特徴

丹沢(たんだわ) 早生(9月上旬) <p>早生種の中では収量が多く大果。収穫始めにシナビ、ワレがしやすい。果肉色が鮮やかな黄色のため、甘露煮やペーストなどに適する。</p>	人丸(ひとまる) 早生(9月上旬～中旬) <p>小果だが艶があり、甘み、香りとともに良い。果肉の色も良く食味にすぐれ、加工に適する。</p>	ぼろたん 早生(9月上旬～中旬) <p>切れ目を入れて加熱することで渋皮まで剥皮できる。果肉はもろいが、色は良い。「丹沢」「国見」との混植は避ける。</p>
利平(りへい) 中生(9月中旬～下旬) <p>外観が美しく、人気がある。栽培は難しく、収量が不安定で、裂果が多い。肉質はかたく脆い。ゆで栗、蒸し栗などに向く。</p>	筑波(つくば) 中生(9月下旬～10月上旬) <p>中生の代表品種。豊産で外観・粒揃い良好。甘みがあり、粉質で香りが良い。</p>	銀寄(ぎんよせ) 中生(9月下旬～10月上旬) <p>クリタマバチ被害、実炭そ病が少ない。結果期に入るのが遅く、風による落きゅうが多い。風味豊かでしっとり感があり渋皮煮などに良い。</p>
美玖里(みくり) 晩生(10月上旬～中旬) <p>大果で果肉の色が濃く、栗きんとんへの加工適性に優れる。樹勢が強く直立性。高木になりやすいため注意。虫害にやや弱い。</p>	石鎚(いしづち) 晩生(10月上旬～中旬) <p>晩生種として多収で、風害に強い。結果過多になると小果になりやすい。加工の面では、歩留まりが高く、煮崩れが少ない。渋皮煮に適する。</p>	岸根(がんね) 晩生(10月中旬～下旬) <p>晩生種で大果。収量はあまり多くない。大規模経営向けの補助品種。甘みがあり、貯蔵に適している。</p>